

# 嗚呼、旧制弘高 開校百年

佐賀郁朗

①

今日、弘前市が学都とした。

て誇っているのは旧制弘前高等学校であったからであらう。大正10年9月完成した洋風の木造2階建て本館は、

## 全市をあげて歓迎

渋いモスグリーンに塗られた外壁、上下に開閉するガラス窓、玄関の欄間や軒下に彫刻が施され、全館スチーム暖房だった。講堂は大正12年12月に竣工した。外観はネオゴシック風の木造洋風建築で、内部は高い吹き抜けの天井に、20年に取り壊された。

大正11年4月に北溟寮ができるまで、生徒たちは禅林街のお寺に分宿した。全国各地から集まった新入生205人は弊衣破帽、高下駄姿で寮歌や「デカンショ節」を歌いながら城下町を闊歩し青春を謳歌した。入学者の8割が県外からで、浪人や都落ちが多かったことが、次の寮歌の歌詞からも推察できよう。

### 寮歌(一)

臨本忠信作詞  
菅谷知巳作曲

都も遠し津軽野にあふるゝ生気若人の胸に希望の春は来て高なる血潮紅に咲くは理想の花の色  
潜むや大鵬みちのおく

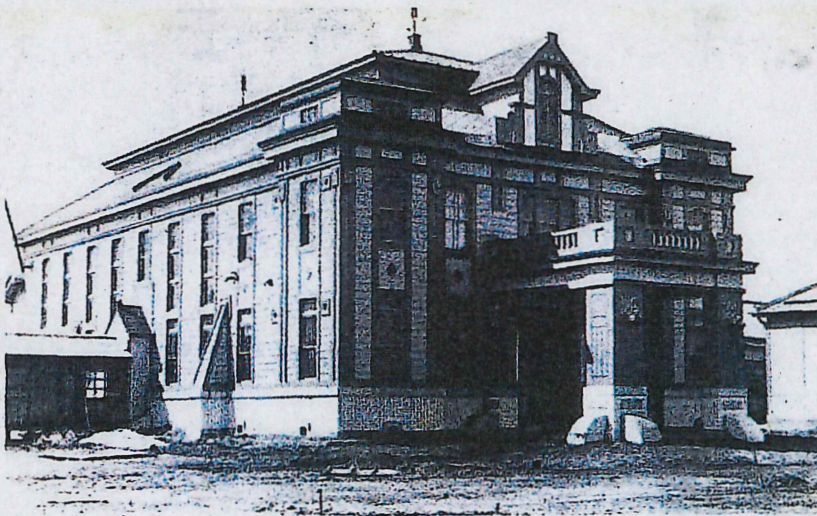
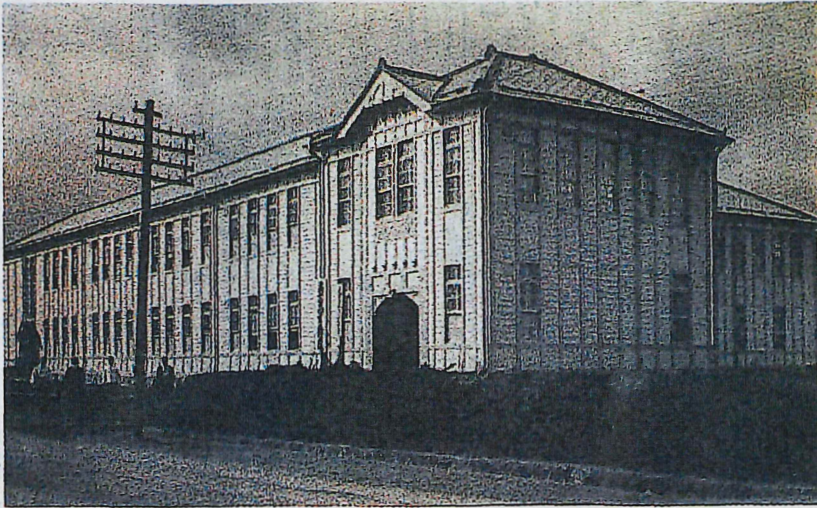
(旧制弘前高校28回生、埼玉県所沢市在住)

※弘前大学資料館では8月21日まで、「旧制弘前高等学校―みちのく弘前で学んだ学生たちの青春―」を開催中。新型コロナウイルス感染症の状況により、入館制限が講じられている場合があります。事前にはホームページなどで確認を

大正10(1921)年4月16日、仮校舎となった市公会堂で開校式が行われた。この日、弘前市では早朝花火を打ち上げ、小学生全員が公園から追手門を経て市役所前の元寺町を通り、蔵主町の公会堂まで祝賀行列を行い、夜は中学生青年団が提灯行列を行った。

旧制弘高の建設費資金は70万円、うち30万円は県が負担し、10万円は弘前市が寄付した。市の寄付10万円の半額は藤田謙一、宮川久一郎、津軽義孝らの大口募金のほか、菊池長之、伊東重、竹内運吉、石郷岡文吉、一戸兵衛、野宮忠吉は多数の市民の募金によった。

建物の建設には堀江佐吉門下の棟梁川元重次郎、田中忠五郎が腕をふるった。



旧制弘前高等学校の校舎(上)と講堂。校舎は大正13(1924)年ごろ撮影。講堂は大正12年の竣工時の撮影と推定される(ともに弘前大学附属図書館蔵)

※この記事は陸奥新報社の提供です。

※この画像は、当該ページに限り陸奥新報の記事利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。



②

旧制高校は3年制、生徒の自治による寮運営の全寮制が建前だった。しかし、敗戦後は食糧事情が窮迫しており、筆者は地元出身のため入寮できなかった。旧制高校を卒業すれば、学部さえ選ばなければ殆ど全員が帝国大学へ入学できたので羨むべきもあるが、教育の実情は厳しかった。

例えば、1回生は文科122名、理科83名が入学したが、3年後に卒業できたのは文科94名、理科42名にすぎなかった。筆者は昭和23(1948)年4月、旧制弘前高校28回生として理科に入学した。

憧れの白線帽にマント姿で闊歩し、満開の桜の下での宴の歓喜に酔ったのも束の間、厳しい授業に呻吟する日々が始まった。

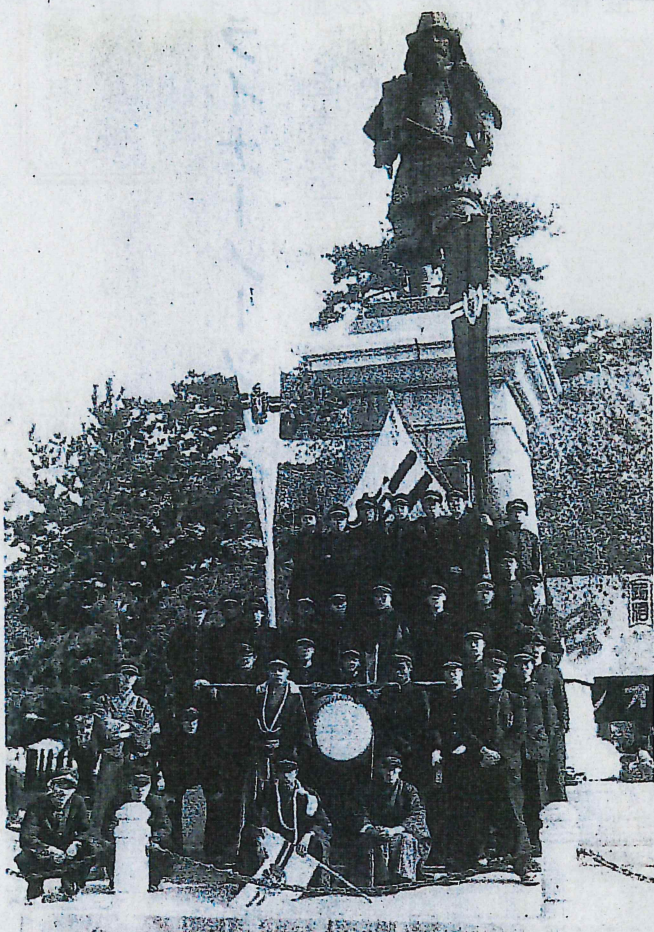
旧制高校の教育の特徴の

### 厳しかった授業

一つに、徹底した外国語教育があった。太平洋戦争が始まるまえは、英語、ドイツ語の外国人教師がいた。ドイツ語の講義はとくに厳しかった。いきなり、文法の授業と同時に読本の講読

が始まるすさまじさだっ  
た。ドイツ語には四つの格があり、名詞は男性・女性・中性に区分され、それらが1人称・2人称・3人称、単数・複数と組み合わせられて変化する。それを覚えるのは大変だった。さらに、高等数学の授業も難解で、筆者は必死でノートをとっていた。しかし、級友のなかに桁外れの「秀才」がいた。彼は何時も平然と教授が書く黒板をみつ

めていたが、ある時、「先  
生、その説明は間違っている」と指摘した。のちに彼は京大教授になった。授業のほかに、生徒には必読書があった。倉田百三『出家とその弟子』、阿部次郎『三太郎の日記』、西田幾多郎『善の研究』などを読んでいないと仲間の議論に加われなかった。筆者には、メッチェン(Mitchell)、女の子)と交際する余裕は全く無かった。



昭和14(1939)年5月、弘前公園本丸で行われた北溟寮南寮2棟の観桜会の集合写真。後ろは津軽為信銅像(弘前大学附属図書館蔵)

入学半年後の秋、GHQによりすすめられた学制改革で、28回生は1年修了で追い出され、帝国大学への進学は閉ざされた。10月の27回寮祭は、3学年揃っての最後の寮祭とあって、かつての寮三役経験者をはじめ、各地から大勢の先輩が駆けつけた。前夜祭ではグラウンドを埋め尽くした父兄・市民の取り巻くなか、ファイヤー・ストームの炎が夜空に舞い上がり、その周りを生徒と先輩たちは幾重にも肩車を組み、校歌、寮歌を絶唱しながら乱舞した。ねぶたの運行が許可され、生徒たちはストームを先導に、扇ねぶたを牽いて市内の繁華街を練り歩いた。(旧制弘前高校28回生、埼玉県所沢市在住)

※この記事は陸奥新報社の提供です。  
※この画像は、当該ページに限り陸奥新報の記事利用を許諾したものです。  
転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。



③

上田重彦、作家で後に大阪成蹊女子短大教授)は放校になる。

昭和5年、太宰治は東京帝大の仏文科に入学し、非合法活動をつづける。青森から馴染みの小山初代があとを追って上京してきた。

昭和10年、太宰は新聞社の入社試験に落ち自殺未遂、芥川賞の受賞をのがし、その後も薬物中毒の悪化で武蔵野病院に入院、小山初代と心中未遂

昭和5年、太宰治は東京帝大の仏文科に入学し、非合法活動をつづける。青森から馴染みの小山初代があとを追って上京してきた。

昭和10年、太宰は新聞社の入社試験に落ち自殺未遂、芥川賞の受賞をのがし、その後も薬物中毒の悪化で武蔵野病院に入院、小山初代と心中未遂

昭和10年、太宰は新聞社の入社試験に落ち自殺未遂、芥川賞の受賞をのがし、その後も薬物中毒の悪化で武蔵野病院に入院、小山初代と心中未遂

旧制弘前高等学校を語る時には、太宰治(7回生、本名・津島修治)を取りあげないわけにいかない。忘れもしない昭和23(1948)年6月半ばの昼休み、校舎のなかが騒然としてきた。先輩太宰治が行方不明になったらしい、この噂が駆け巡った。

昭和7年、太宰は左翼運動を離れ、長兄文治に頼まれた弘高の先輩飛鳥定城(2回生、後に東京日日新聞記者、福島民報社長)は、白金三光町と杉並天沼で太宰と同じ屋根の下で暮らすこととなった。昭和10年、太宰は新聞社の入社試験に落ち自殺未遂、芥川賞の受賞をのがし、その後も薬物中毒の悪化で武蔵野病院に入院、小山初代と心中未遂

昭和10年、太宰は新聞社の入社試験に落ち自殺未遂、芥川賞の受賞をのがし、その後も薬物中毒の悪化で武蔵野病院に入院、小山初代と心中未遂

昭和10年、太宰は新聞社の入社試験に落ち自殺未遂、芥川賞の受賞をのがし、その後も薬物中毒の悪化で武蔵野病院に入院、小山初代と心中未遂

### 衝撃をうけた太宰の死

敗戦直後の昭和20年10月、太宰は「バンドラの匣」を河北新報に連載、その後、文芸誌に短編やエッセーを立て続けに寄稿していた。そして、昭和22年夏に「斜陽」を「新潮」に連載し、弘高生の間でも絶大な人気を博していただけに、太宰失踪の衝撃は大きかった。

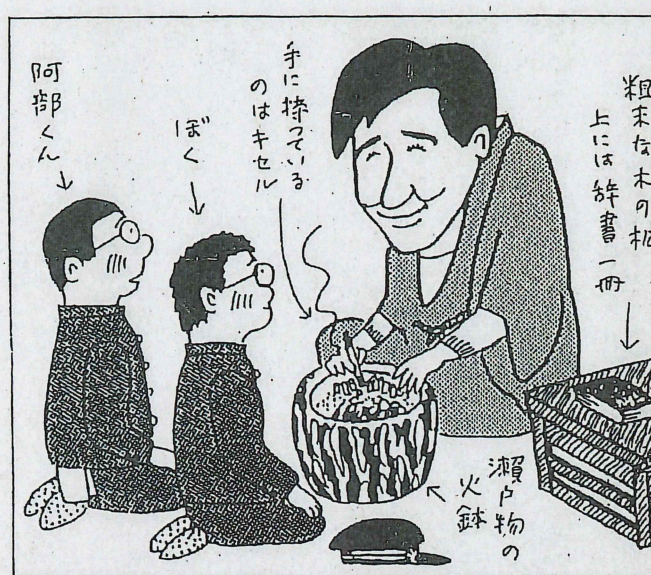
昭和2年、太宰治は旧制弘高文科甲類に入学した。平岡敏男(6回生、後に毎日新聞社長)は1年後輩の太宰を新聞雑誌部に誘い、彼は「弘高新聞」に左翼的

昭和2年、太宰治は旧制弘高文科甲類に入学した。平岡敏男(6回生、後に毎日新聞社長)は1年後輩の太宰を新聞雑誌部に誘い、彼は「弘高新聞」に左翼的

昭和2年、太宰治は旧制弘高文科甲類に入学した。平岡敏男(6回生、後に毎日新聞社長)は1年後輩の太宰を新聞雑誌部に誘い、彼は「弘高新聞」に左翼的

昭和2年、太宰治は旧制弘高文科甲類に入学した。平岡敏男(6回生、後に毎日新聞社長)は1年後輩の太宰を新聞雑誌部に誘い、彼は「弘高新聞」に左翼的

敗戦直後の昭和20年10月、太宰は「バンドラの匣」を河北新報に連載、その後、文芸誌に短編やエッセーを立て続けに寄稿していた。そして、昭和22年夏に「斜陽」を「新潮」に連載し、弘高生の間でも絶大な人気を博していただけに、太宰失踪の衝撃は大きかった。



成田祐之氏が疎開中の太宰治を訪問した時の様子を描いたイラスト(「北溟」4号)

昭和21年2月、妻子とともに金木の生家に疎開していた太宰を訪問した成田祐之(24回生、旧制青森中学卒、後に開業医)は次のように記している。

太宰は、筒ぞでの着物にらくだのシャツを着て、浅黒い顔で猫背、鼻にかかった眩くような喋りかた、大きな体にくらべて手が小さく、華奢な細い指が印象的

※この記事は陸奥新報社の提供です。  
※この画像は、当該ページに限り陸奥新報の記事利用を許諾したものです。  
転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。



④

昭和25(1950)年3月、学制改革により、旧制弘前高等学校は開校から約30年で閉校となった。この間、4747名の卒業生(1年修了の28回生を含む)を出した。

閉校後も同窓会活動は続いた。

昭和35年、創立40周年記念祭を弘前市で開催、その後5年ごとに記念祭を重ねた。

平成元(1989)年、創立70周年記念祭に、弘高生青春之像をかつての校舍跡地に建立した。制作者は日本芸術院賞を受賞した高橋剛氏である。このブロンズ像は旧制高校の卒業生の間で有名なモニュメントとなっている。

ついで創立80周年記念祭に、青春之像の側に全在校生50325名を記した名簿

平成11年、弘前大学創立50周年記念事業後援会会長

銘板が建立された。この銘板は、入学したものの病氣や2年続けて落第するなど卒業できなかったり、左翼思想に走ったとして退学させられた生徒等を含む在籍した全生徒名を記した。

ちなみに、銘板はみちのく銀行の寄贈になるが、元会長の大道寺小三郎(26回生)の名前は入学時の24回生の欄にある。

### 閉校後も盛んだった同窓会活動

に大道寺が就任、創立50周年記念会館が建設された。

平成16年、旧制弘高外国人教師館移築事業に協力した。

平成17年、創立85周年に当たり千秋萬歳の式典を



旧制弘前高校校舎跡地(弘前大学文京町キャンパス内)に建てられた弘高生青春之像(左)。側には全在校生名を記した名簿銘板(右)もある

翼繕いし 鳳雛が  
圈を画きて 翔びたてり  
星霜は実に 七拾五  
今 青春は 何処ぞや  
Schön ist die Jugend

(旧制弘前高校28回生、埼玉県所沢市在住)

※弘前大学資料館では21日まで、「旧制弘前高等学校―みちのく弘前で学んだ学生たちの青春―」を開催中。30日から10月30日まで是一部展示を入れ替えた同名企画展の「開校100周年記念展示会(第2部)」を予定している。新型コロナウイルス感染症の状況により、入館制限が講じられている場合があるため、事前にホームページなどで確認を

青春遙かなり

小野正文作詞  
山田榮一作曲

ここ弘前を  
わが学校は  
佳しとして  
創まりぬ

|| 終わり ||

※この記事は陸奥新報社の提供です。  
※この画像は、当該ページに限り陸奥新報の記事利用を許諾したものです。  
転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。